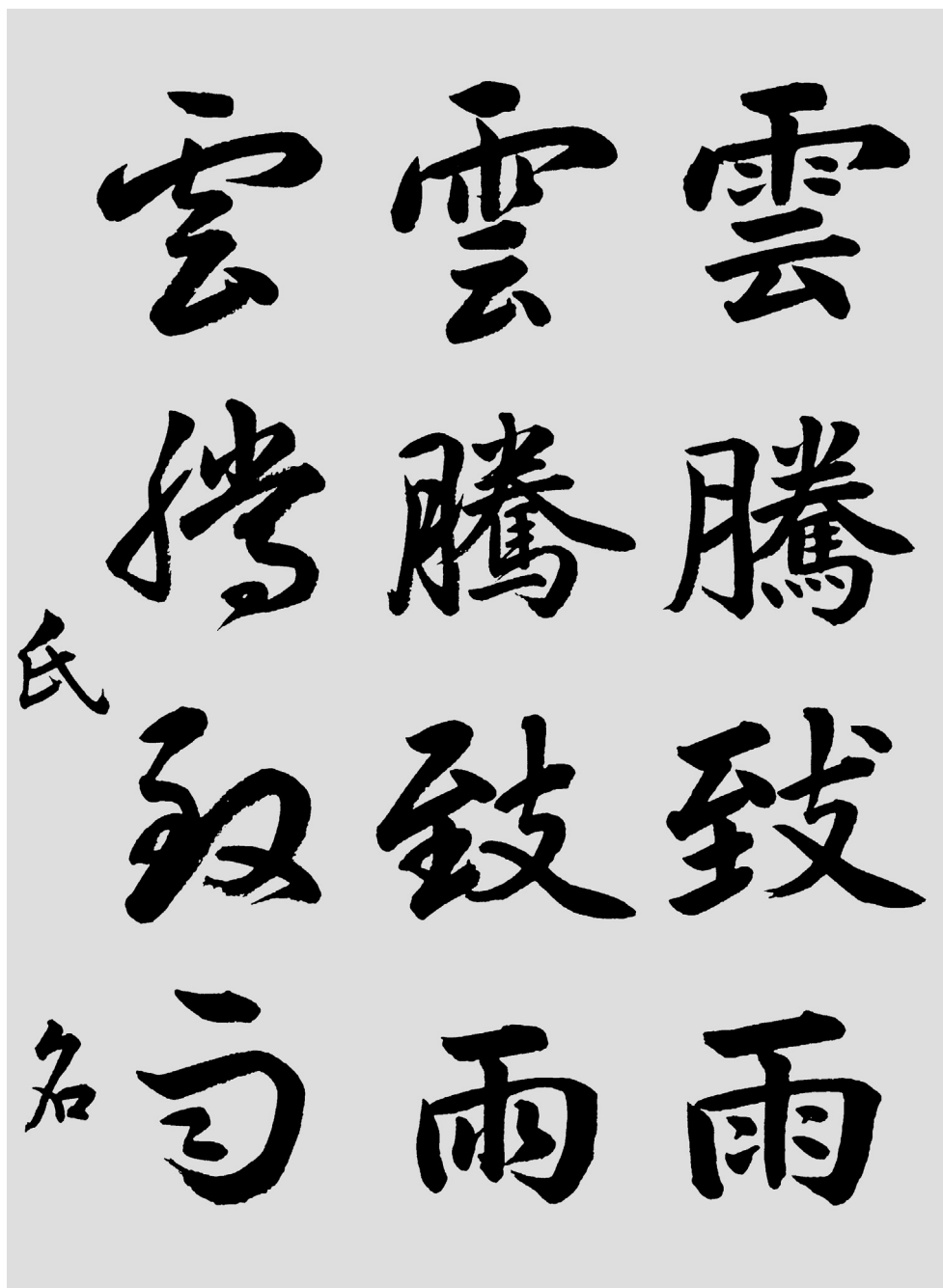


三体千字文を書く(9)

締切り 九月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で氣品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

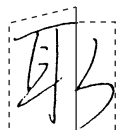
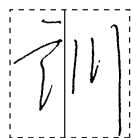
雲 騰 致 雨
露 結 為 霜

雲が騰って雨を降らせ、露が凍って霜となる。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



◎行書は、字形のやわらかな味を出すために線と線のつながりをよく、一定の速度とリズムで自然に運筆するとよい。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

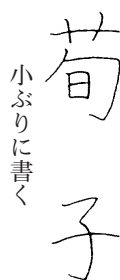
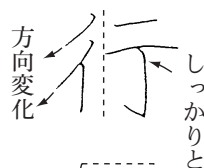
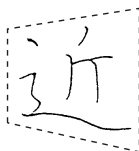
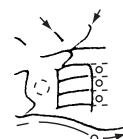
人は敗れた
ゲームから教訓を
学ぶ取るものだ

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



方向変化

しっかりと

小ぶりに書く

	行	道
	か	近
	ざ	し
	れ	と
荀	ば	い
	至	え
子	ら	ど
	ず	も

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★道近し：（書体＝楷書）

荀子（生没年未詳）

中国戦国時代の儒家

例えば欧米にも「試みのないところ
に成功のあったためしはない」という
ことわざがあります。理屈はわかって
いてもなかなか腰があげられないことが
よくあります。「考え過ぎず」まずは一
歩、「歩き出す」ことが肝心です。単な
る怠惰は問題外です。

◆10月課題予告（行書）

実行せざる

思い付きは

空想と称す

★人は：（書体＝行書）

ボビー・ジョーンズ（一九〇二～一九七〇）

米国アマチュアゴルフファア

ボビー・ジョーンズは、アメリカの
アマチュアゴルフファアとして不滅の記
録を残した人物です。それでもプロに
は転向せず、一九三〇年引退しました。
本職は弁護士でした。課題文は、彼が
二十五歳で書いた回顧録にある特に有
名な名言です。

◆10月課題予告（楷書）

智は目の如し

百歩の外を見て

睫を見る能わず

▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

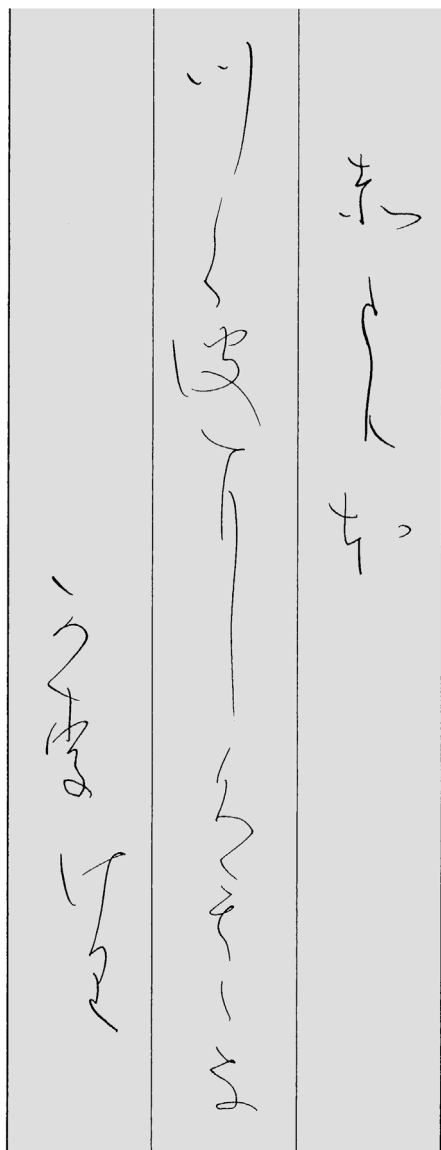
一般部かな課題

締切り 9月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり
とん 本州く 耳久毛、奈可李 里

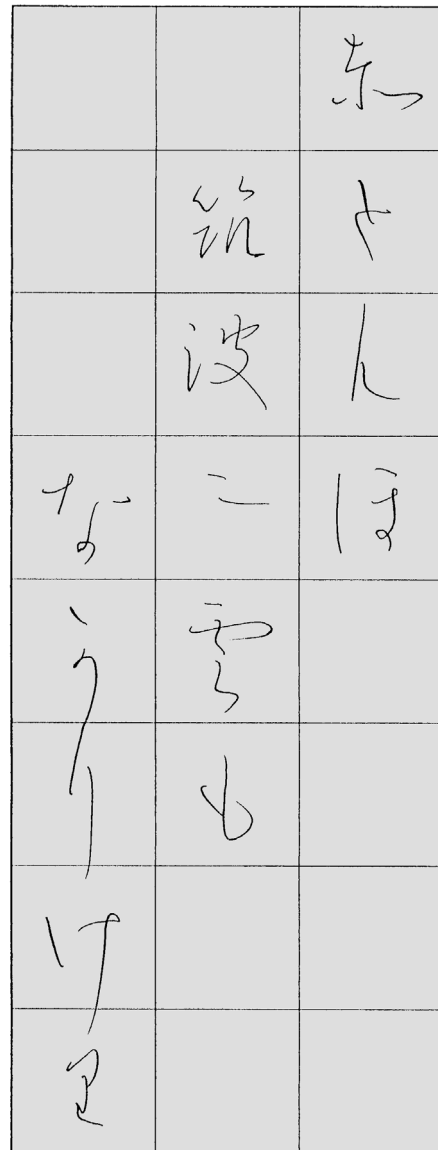


おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり
とん ぼ 二 可 里



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆10月課題予告

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺
かき かね な ほふりうじ

(正岡子規)

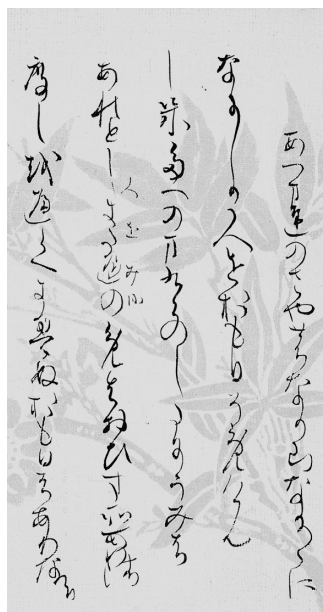
里り 李り 毛も 耳に 州っ(川) 本ほ
里り 李り 毛も 耳に 州っ(川) 本ほ
里り 李り 毛も 耳に 州っ(川) 本ほ
里り 李り 毛も 耳に 州っ(川) 本ほ
里り 李り 毛も 耳に 州っ(川) 本ほ

〔古筆参考〕

赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり
あかとんぼつくばにくも
(正岡子規)
〔句意〕 からりと晴れ渡った秋空を、
時おり、赤蜻蛉の群れがすいすい横切っ
て行く。はるか彼方には筑波の山がそ
びえ立ち、一片の雲さえ見えない。み
ごとな秋晴れのすがすがしい天気であ
る。

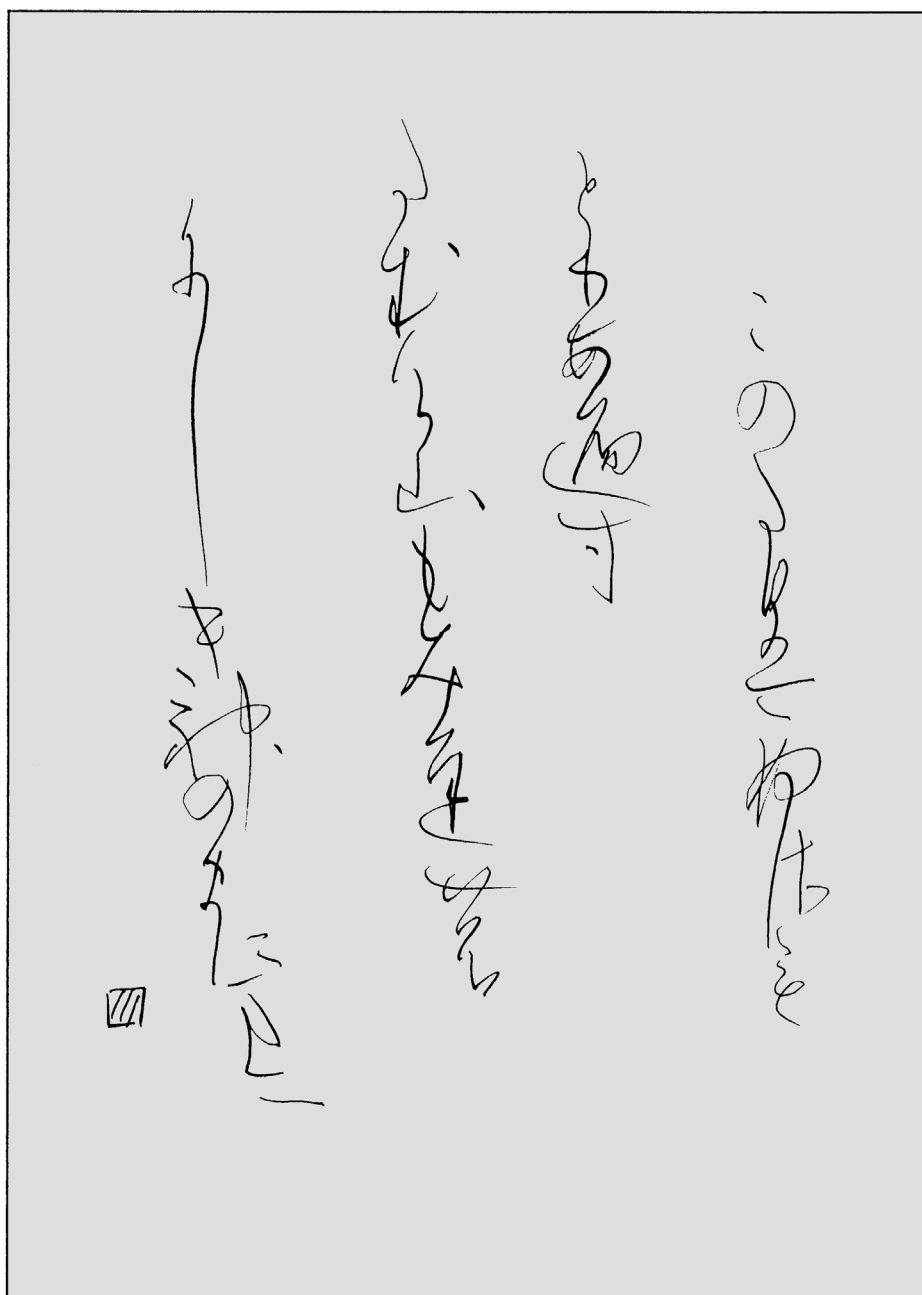
〔古筆参考〕

ほん あ み ぎれ
本阿弥切



締切り 九月二十五日（必着）

築瀬舟香書



あづまのさやのなか山なかくに
なにし人をおもひそめけん
きたへのまぐらのしたにうみは
あれど（きたへの）めはおひずぞありける
としをへてきえぬおもひはありながら

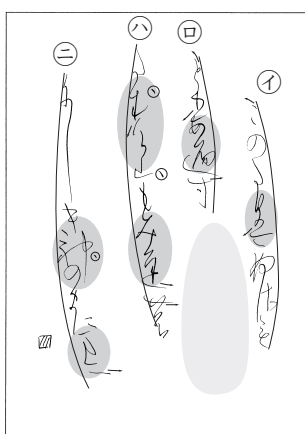
このたびは幣もとりあへず手向山
もみちの錦神のまにまに

〔歌意〕このたびの御幸には、幣の用意もして参りませんでした。さいわいにも紅葉が美しい折でございます。神様の御心にかなうといたしましたらこの紅葉を幣としてお受納下さい。

〔出典〕古今和歌集

（新潮日本古典集成）

〔解説〕



①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧、
それぞれ呼応。
大きな間。

行の中の密の動き大切。

方向注意。

点の位置注意。

本阿弥切の魅力(二)

本阿弥切の魅力の一つに、書式をあげる事が出来るでしょう。本阿弥切の書式は自由で、変化に富んでいる。一首一行と云うように常識的に書かれてある巻もありますが一首二行書きや、巧妙な散らし書き、又一つの歌の余白に闕字をおいて次の歌を追いつくと云った他に類を見ない古筆なのです。

参考資料「日本書道辞典」

「古筆に学ぶ」共に二玄社

◆10月課題予告

夜を寒み置く初霜を払ひつつ
草の枕にあまたたび寝む

締切り 9月25日(必着)

六月に竣工したばかりのフェリー「すずらん」で小樽にきています。二日間の船旅でしたが、ホテル並の客室で、食事をしながら日本海に沈む夕日をながめたりと日常を忘れる贅沢な時を過ごしました。

六月に竣工したばかりのフェリー「すずらん」で小樽にきています。二日間の船旅でしたが、ホテル並の客室で、食事をしながら日本海に沈む夕日をながめたりと日常を忘れる贅沢な時を過ごしました。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

パンダは、そのユーモラスな白黒模様で、世界の珍獣といわれる。

神奈川県厚木市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 9月25日（必着）

行
末
古
今
阻
絶

り
末
古
今
阻
絶

り
但
今
阻
絶

〔出典〕書譜（687）〔筆者〕孫過庭（649?～688?）

〔読み〕末を行ない、古今阻絶して

準初段から師範まで

奥
村
暢
之
臨

月
孤
夜
深
明

〔読み〕夜深く明月孤なり

〔大意〕夜が更けて月だけが皎々と明るい。

新入から1級まで（楷書）

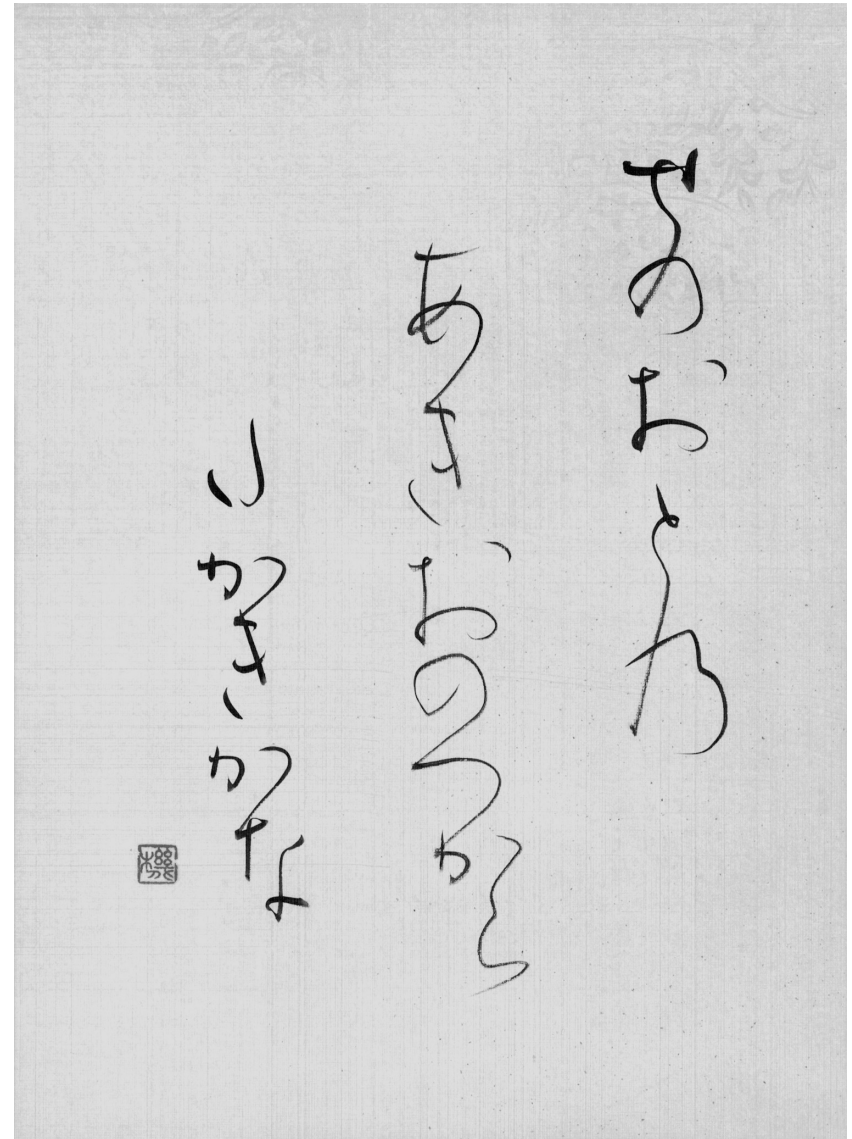
澤
静
雨
書

一般部毛筆かな課題

締切り 9月25日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

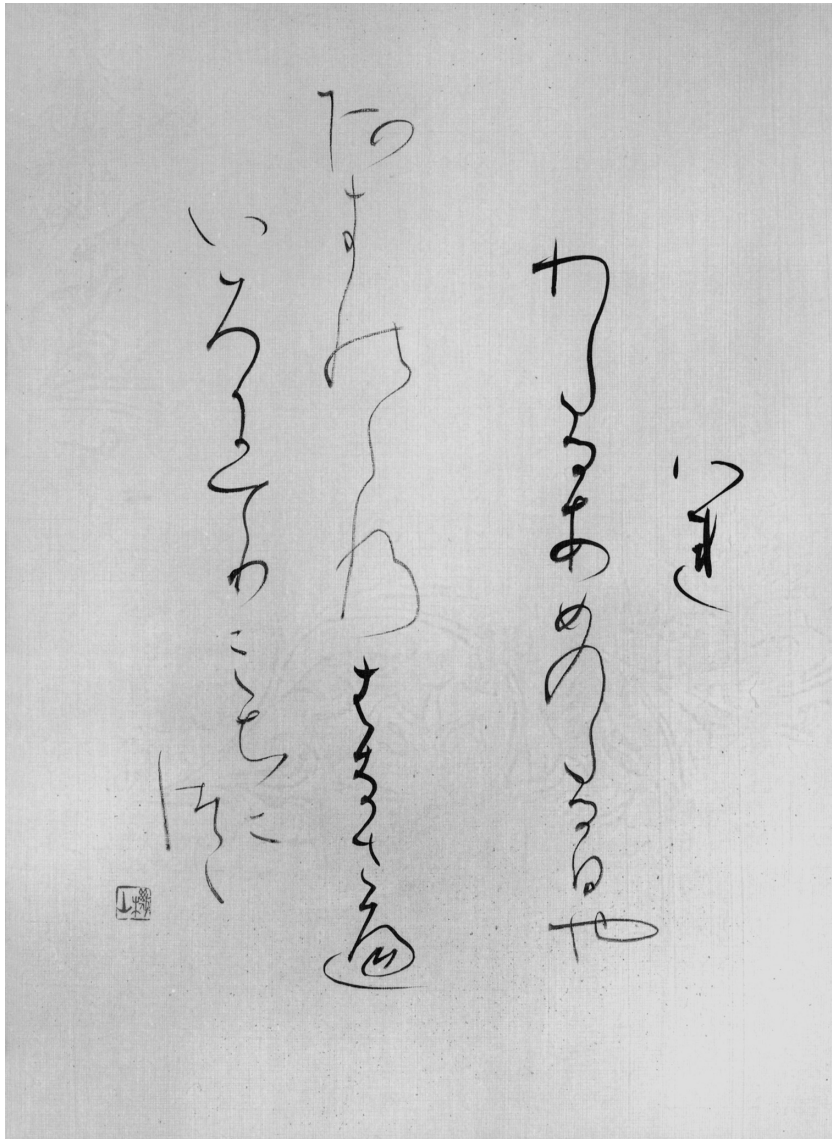


〔出典〕 久保田万太郎

〔句意〕 「九月六日“いとう句会” 同人とともに伊豆吉奈東府にあり」と前書きがある。澄んだ大気に瀬の音が高く響いており、いかにも秋高しという感じだ。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



〔出典〕 島木赤彦

〔歌意〕 大空は晴れ渡り日の照りみちる日よ。秋の野に咲く花さえ美しい色に照り満ちている。

花はは
され渡
へる天
いろの
に足日
照りや
み三秋
ち二の
につ野
つ、の

一般部毛筆細字課題

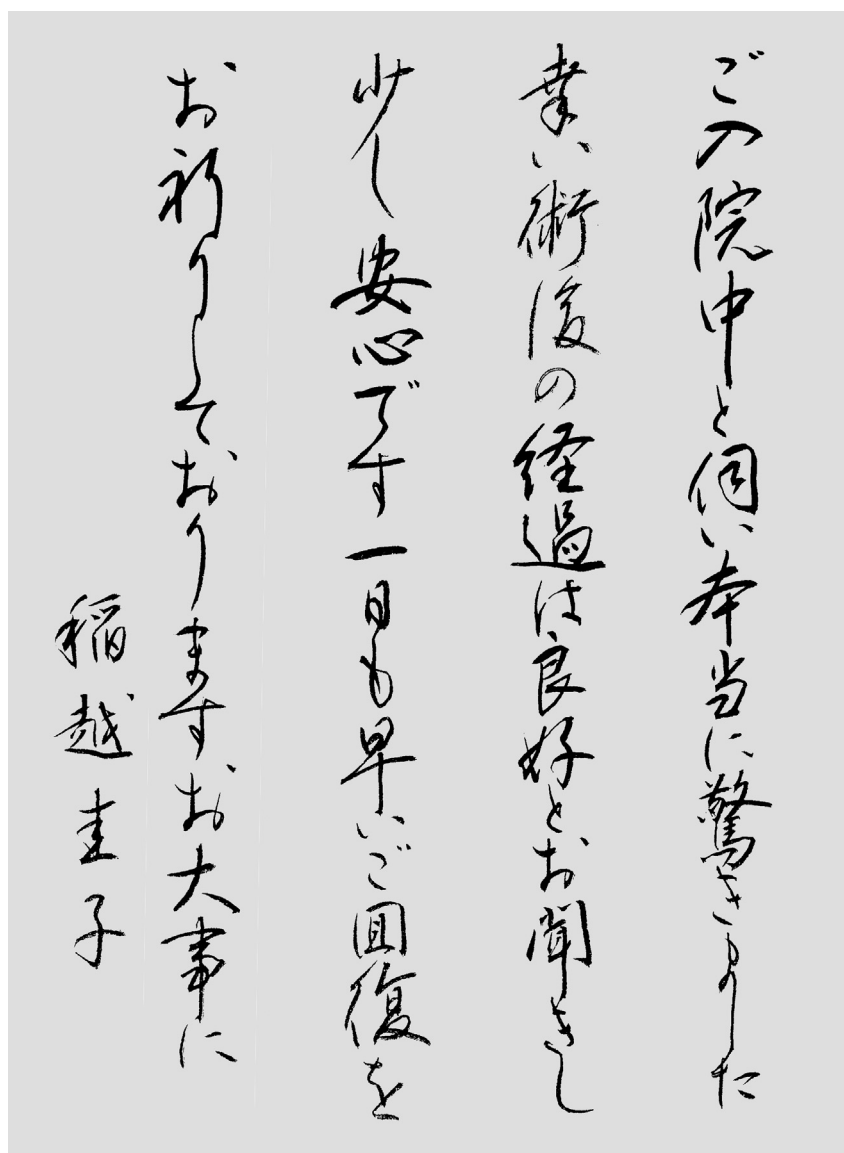
一般部毛筆条幅課題

締切り 九月二十五日（必着） 半切（一三六cm×三五cm）



荻田蒼仙書

東湖仲夏亭午涼
屋古無人亭午涼
〔大意〕真夏の東湖に
草樹が掩い、古びた庵
には人氣も少なく日中
でも涼し。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。



書 華 玲 田 樋

半紙（334mm×240mm）

〔条幅解説〕平常心で書けることも修行の一つ。アガルと萎縮し、気持ち勝ち過ぎるとオーバーな表現になり、これ又ダメ。私はその辺も苦勞の種。ホンの少しアガル方がよい演技が出来ると申された名優さん、成る程。何事も人に訴えるには緊張感をもつ事、これも大事。

・ご入院中と伺い本当に驚きました
幸い術後の経過は良好とお聞きし
少し安心です。一日も早いご回復を
お祈りしております。お大事に

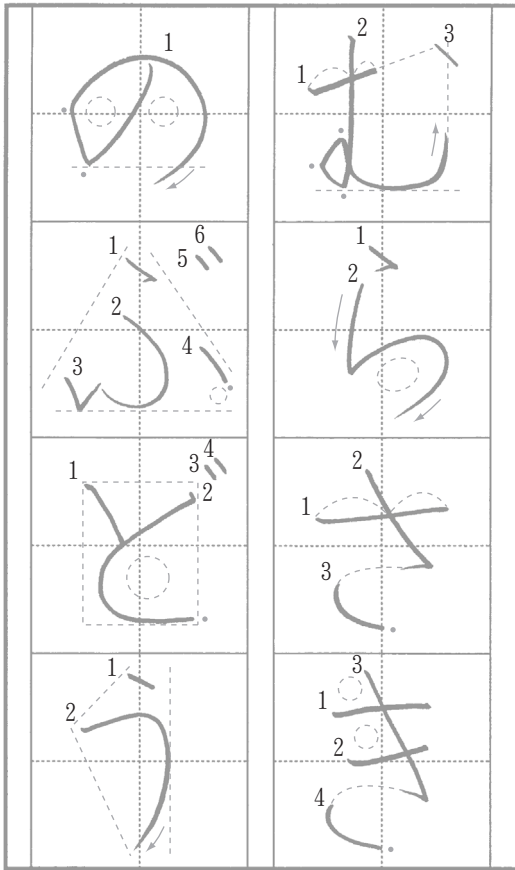
（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

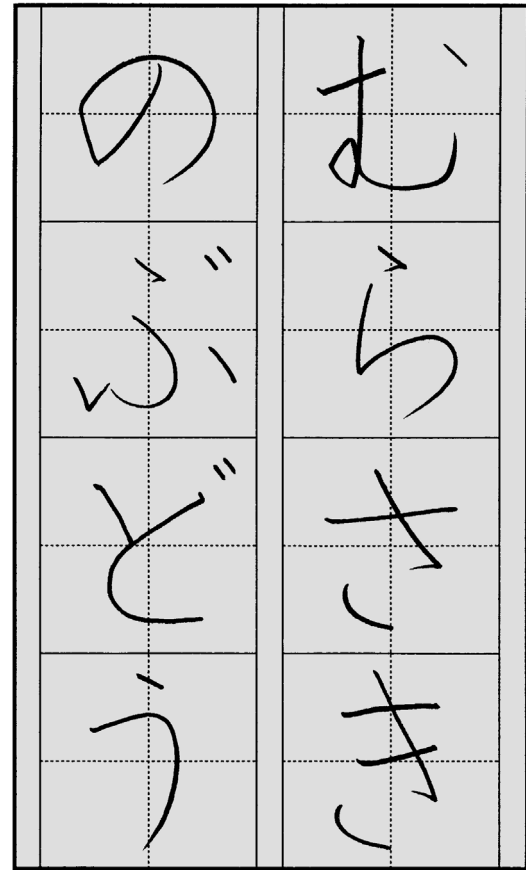
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



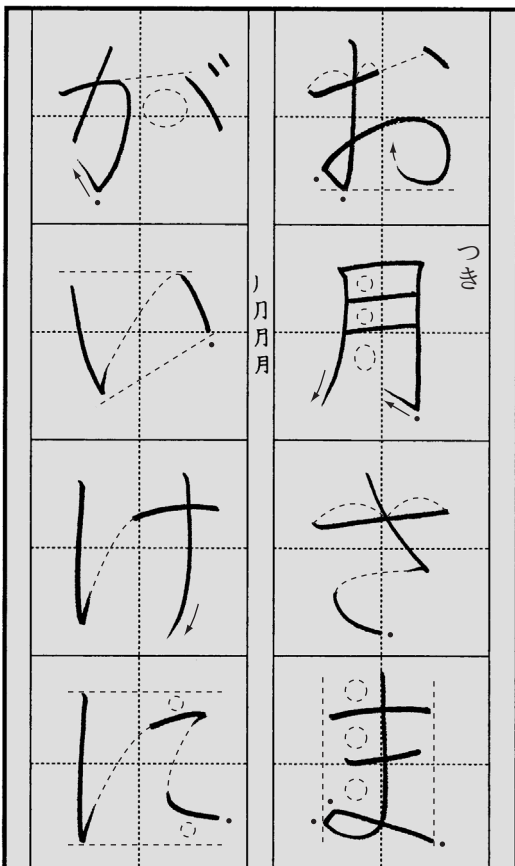
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

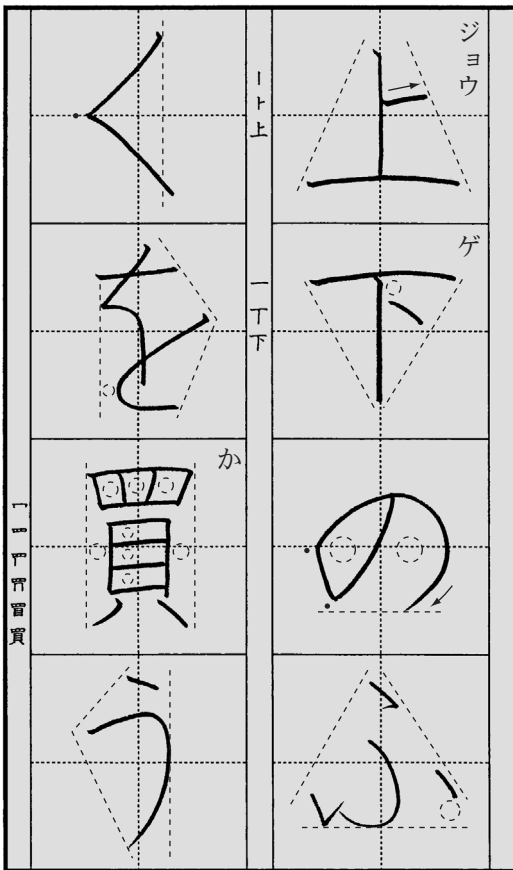
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



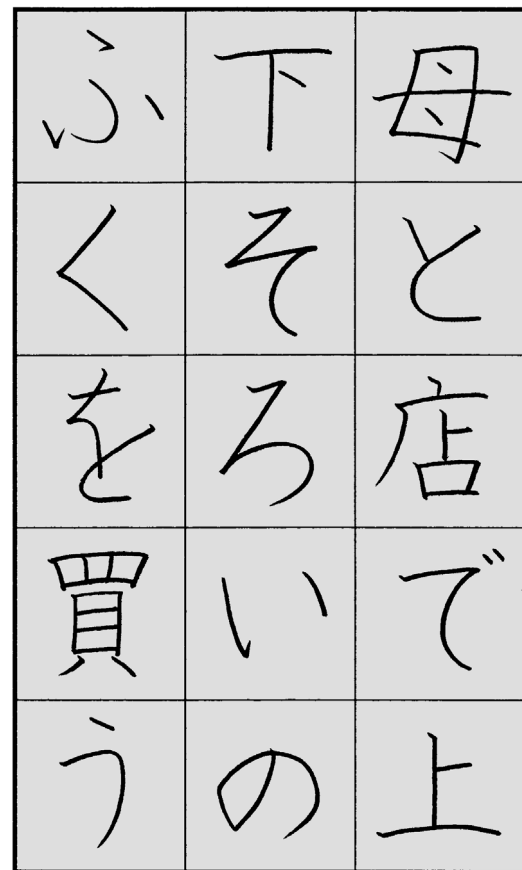
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

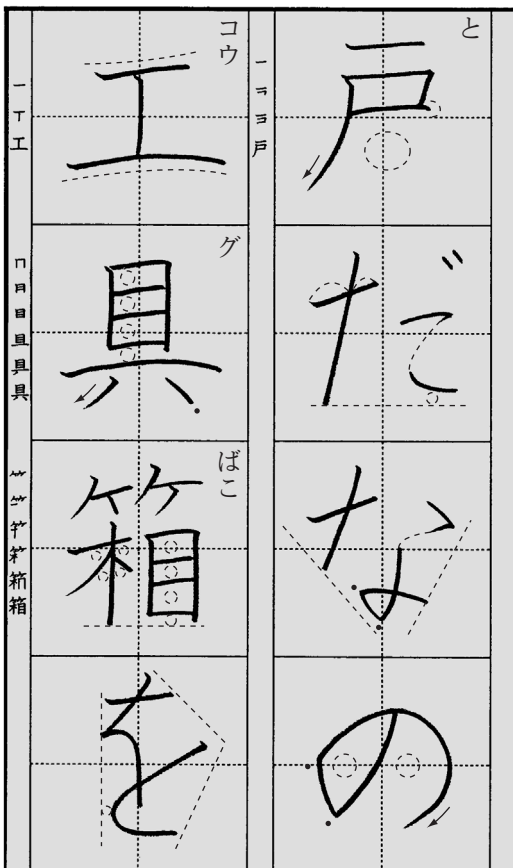


新入1級

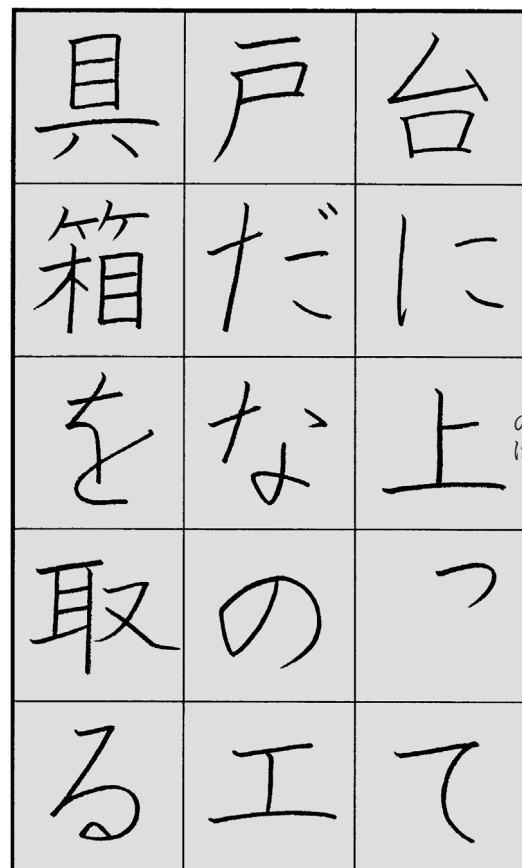


小二年

準初段以上



新入1級

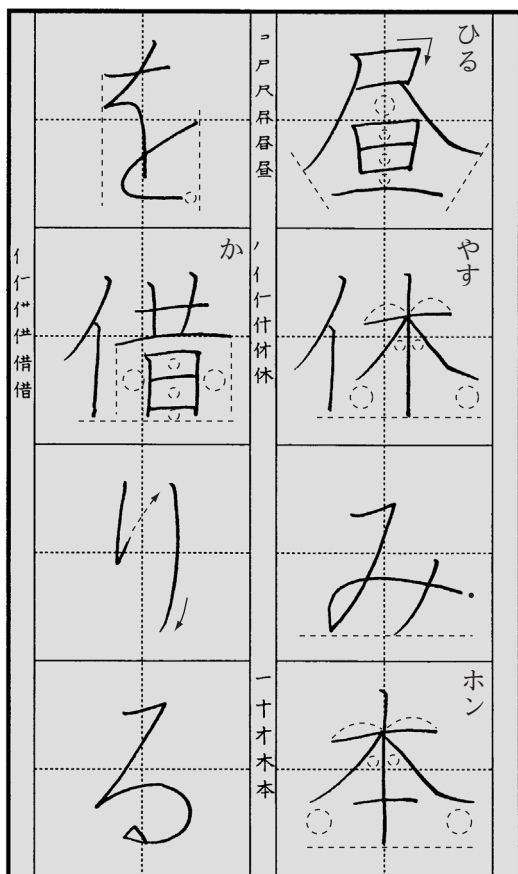


小三年

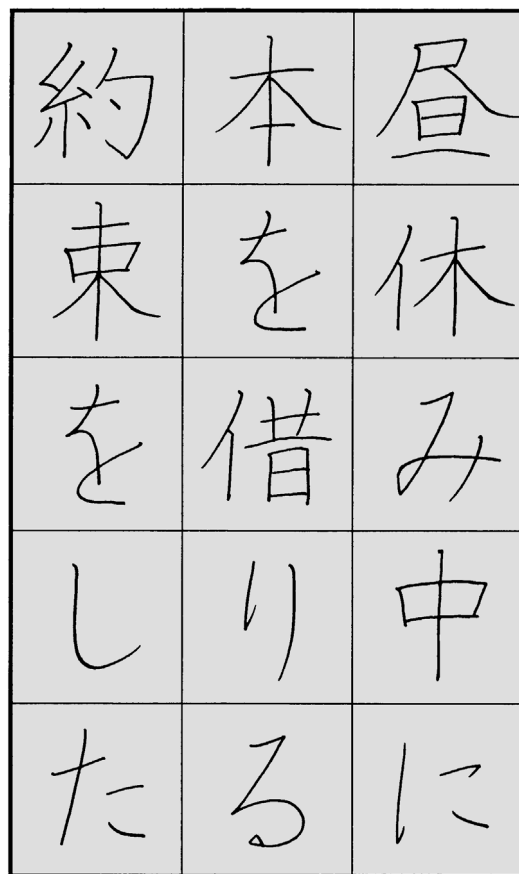
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

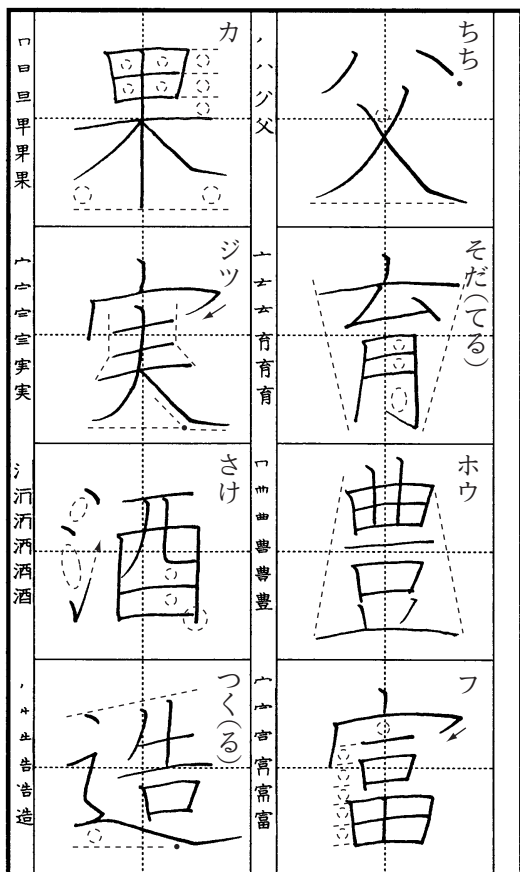


新入1級



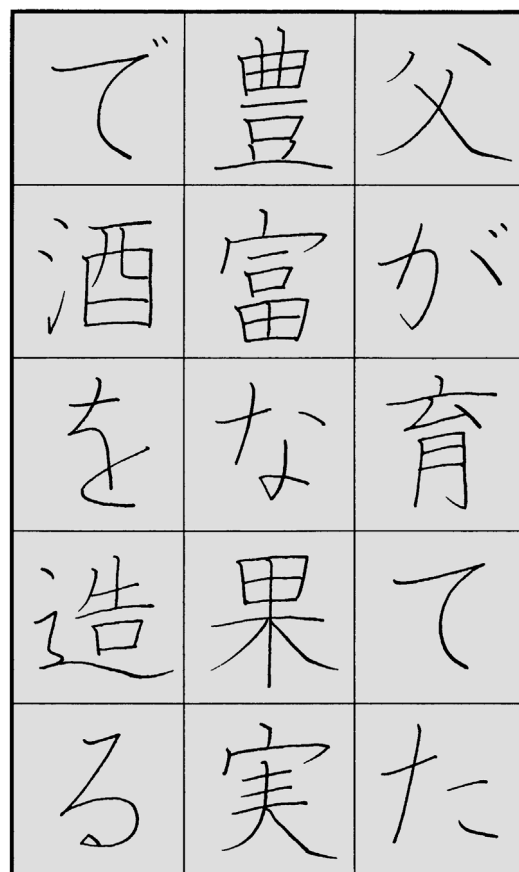
小四年

準初段以上



※課題予告は「酒を作る」でしたが「酒を造る」に訂正します。
解説(よく見て習いましょう)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小五年

(全員)

小四以上 須田一葉書

小六年

る	会	様
芸	が	々
術	開	な
の	か	展
秋	れ	覧

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

門 カド	開 ヒラ	様 さま
芸 ゲイ	展 テン	
術 ジュツ	覧 ラン	
秋 アキ	会 カイ	

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

中一年

来	中	精
し	国	進
て	よ	料
き	り	理
た	渡	は

(行書)

中二・三年 (行書)

に	度	兄
参	献	は
加	血	毎
す	運	月
る	動	一

◎お手本は、つけペンで書きました。

▼小三年以下の課題 さ とう こう えん 佐 藤 香 園 書

じ	ピ	風 ^{かぜ}	さ	土 ^ど
ゆ	ン	に	い	手 ^て
う	ク	な	た	一 ^{いち}
た	の	び	コ	面 ^{めん}
ん		く	ス	に
			モ	
			ス	



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 9月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 や の ち せん 矢 野 千 仙 書

作 ^{つく}	初 ^{はじ}	見 ^み	黒 ^{こく}	視 ^し
り	め	え	板 ^{ばん}	力 ^{りよく}
ま	て	に	の	が
す	眼 ^め	く	文 ^も	低 ^{てい}
	鏡 ^{がね}	い	字 ^じ	下 ^か
	を	の	が	し
		で		



※眼鏡＝単語としてこのように読みます。

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

上下

幼年／小二年

玉樹小華書

き

き

上 下

き け

たかく

ながめに

小二

い け

酒果
小五
実

戸
小三
なだ

戸
のびのびと
昼
果
実
酒
休

昼
小四
み休

小三・小五年

水野香竹書

中三 運猷

動血

小六 の芸

秋術

料

猷

動

芸

術

進

中一 料精

理進